北部病院だより 第 109 号(2017.7)

Showa University Northern Yokohama Hospital

【巻頭言】技師長の役割
【お知らせ】七夕のイベントのご紹介
【医師の配属・異動】【診療統計】
【患者さんからのご意見・ご要望】
【TOPICS】医学部生向け病院見学会を開催しました
【TOPICS】春期公開講座を実施しました

海の日の由来をご存知ですか？明治９年に明治天皇が東北地方巡幸の帰途、灯台視察船「明治丸」に乗って横浜港に帰還した７月 20 日を「海の記念日」としたことが始まりだそうです。それまでにも軍艦による巡幸はあったのですが、天皇が軍艦以外の船に乗船されたのはこの時が初めてだったとのことです。

巻頭言　～技師長の役割～

放射線室
技師長　野田　主税

今年の 4 月より放射線室（診療放射線技師）の技師長を拝命いたしました野田　主税（のだ　ちから）です。診療放射線技師の管理者として責任を持って業務を行っていく所存です。いたらない点が多々あるかと思いますが、ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

現在、北部病院の放射線室は、大きく 6 つの部門に分けて業務を展開しており、一般撮影検査、CT 検査、血管造影検査、核医学検査、放射線治療、高磁場を利用した MRI 検査があります。私達診療放射線技師の仕事は、医師が診断や治療をするために必要な画像を X 線や高磁場を用いて撮影し、提供することです。また、診療放射線技師法が一部改正され、平成 27 年 4 月 1 日より、CT・MRI で造影剤を使用した患者さんの血管確保された針を抜き、かつ止血する行為が認められました。それに伴い、指定された講習会をスタッフ全員が修了し、昨年度の 10 月から業務に取り入れるなどして、積極的に業務を行っております。

私は放射線室の運用を「環境」をキーワードとして 3 つの目標を持って進めてまいりたいと思います。まず 1 つ目は、患者さんが安心・安全に検査を受けられるように、放射線室エリアの環境整備を徹底したいと思います。放射線の検査・治療は、とても暗いイメージがあります。そのイメージを解消できるように、患者さんの待合空間や検査室内の整理整頓を積極的に行い、清潔感がある環境を整えることで、検査・治療に対する不安を取り除けるのではないかと思っております。

2 つ目にスタッフの育成に力を注ぎます。患者さんにとっては検査や治療を受けることは不安が大きいものと思われます。初めて検査を受ける患者さんであれば尚更のことと思います。また、長期にわたり検査・治療を受けておられる患者さんにとっては、放射線被ばくに対する不安も多いと思われます。しかしながら実際に放射線検査を受ける患者さんと私達が関わる時間はとても短い状況です。患者さんに安心して検査を受けて頂くために、特にコミュニケーション能力を鍛え、患者さんから気軽にお声がけいただけるような、そして困っていそうな患者さんには率先して声がけを行えるスッタフを育成したいと思います。

3 つ目に、患者さんはつらい状態で診察を受けています。そのような状態を少しでも緩和できるように、検査待ち時間や検査予約待ち日数を減らし、患者さんにとって受診しやすい環境を整えることです。また同じ待ち時間であっても、待ち時間を感じさせない方策も検討したいと思っております。

当放射線室におきましても、北部病院のチームの一員として活躍できるように日々精進してまいります。今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。

お知らせ　～七夕のイベントのご紹介～

7 月 7 日の七夕にあわせ、以下のイベントを実施いたします。

①七夕飾り

中央棟 1 階正面入口前に七夕の笹飾りを設置しております。短冊の記載台も設置しておりますので、ご来院いただいた皆さんも是非とも笹の葉にお願いごとをくくりつけてみてください！

②七夕ライトダウン

7 月 7 日（金）の 18 時～20 時にかけて、院内各所の電気を消灯いたします。7 月 7 日（金）は地球を冷やす日「クールアース・デー」と環境省により定められ、一斉消灯の取り組みが行われます。昭和大学もこれに参加し温室効果ガスの排出量削減および節電に努めます。ご不便をおかけしますが、ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

＜昨年度の七夕飾り＞

医師の配属・異動・退職

新規配属医師

2017 年 7 月

【新規採用】

・山本　明和　　（心臓血管カテーテル室）　昭和大学　平成１８年卒

【附属施設より】

・土橋　一重　　（こどもセンター）　　江東豊洲病院　こどもセンターより
・赤下　志保　　（放射線科）　　江東豊洲病院　放射線診断科より
・谷岡　大輔　　（脳神経外科）　　藤が丘病院　脳神経外科より
・皆川　裕人　　（整形外科）　　藤が丘病院　整形外科より
・野村　由紀子　　（産婦人科）　　江東豊洲病院　産科より
・川上　敬子　　（産婦人科）　　大学病院　産婦人科より
・井口　陽　　（産婦人科）　　大学病院　産婦人科より
・増田　陸雄　　（麻酔科）　　歯科病院　歯科麻酔科より

異動・退職医師

2017 年 7 月

【配置転換】

・工藤　恭子　　（救急センター　　⇒　呼吸器センター）
・山内　章裕　　（救急センター　　⇒　消化器センター）
・松坂　貫太郎　（救急センター　　⇒　内科）
・酒井　健　　（救急センター　　⇒　整形外科）

【出向戻り】

・山口　勇人　　（臨床病理診断科）

【附属施設へ】

・加藤　光広　　（こどもセンター　　⇒　江東豊洲病院　こどもセンター）
・澤田　成彦　　（消化器センター　　⇒　藤が丘病院　消化器一般外科）
・中村　暖　　（メンタルケアセンター　　⇒　東病院　精神神経科）
・杉山　達也　　（脳神経外科　　⇒　大学病院　脳神経外科）
・木村　太郎　　（整形外科　　⇒　藤が丘病院　整形外科）
・秋野　亮介　　（産婦人科　　⇒　大学病院　産婦人科）
・西木戸　修　　（緩和医療科　　⇒　大学病院　緩和医療科）
・志賀　勇昭　　（麻酔科　　⇒　歯科病院　歯科麻酔科）

【学外研修へ】

・竹原　雄介　　（消化器センター）

【退職】

・砂川　優　　（内科）

診療統計

前年同月比　（ ）内は 1 日平均

診療実日数 2016 年 5 月（入院：31 日・外来：23 日）、2017 年 5 月（入院：31 日・外来：24 日）

	入院患者数	外来患者数	救急搬送数	手術件数
2016 年 5 月	17,548 人(566.1 人)	26,264 人(1,141.9 人)	376 件(12.1 件)	661 件(34.8 件)
2017 年 5 月	18,034 人(581.7 人)	27,009 人(1,125.4 人)	467 件(15.6 件)	698 件(34.9 件)

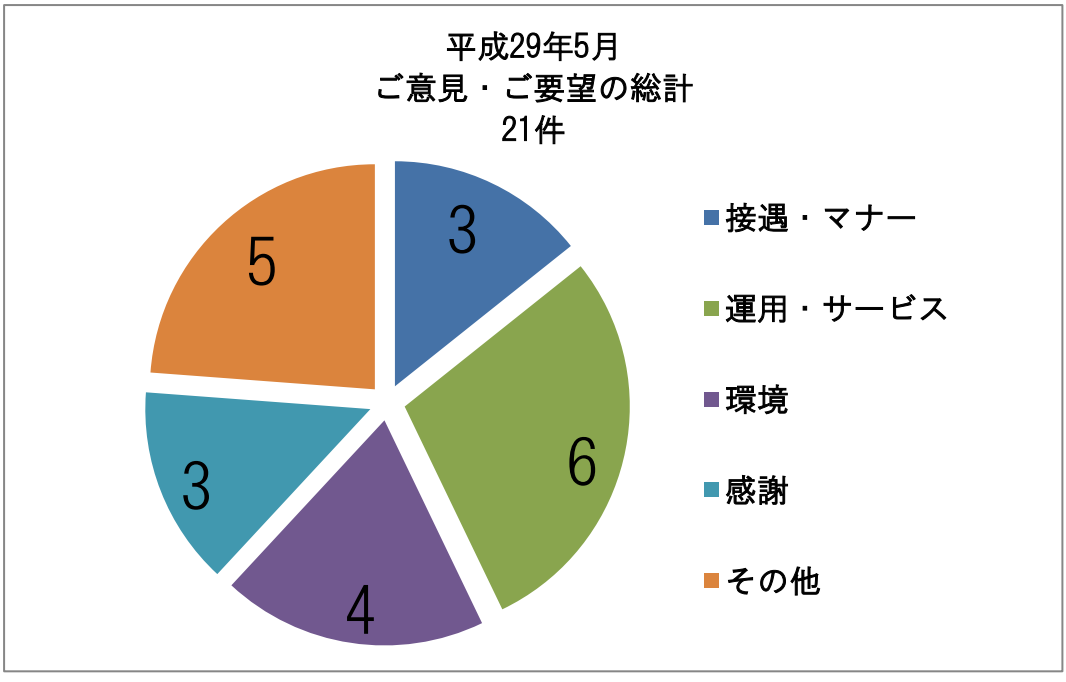
患者さんからのご意見・ご要望

日々患者さんより頂きましたご意見･ご要望に関しましては、院長及び関連する部署の責任者に報告し、改善に努めております。

今までのご意見の中で多くいただいたものや最近のご意見･ご要望を中心に改善策を掲載させていただきました。掲載されていない内容についても対応しておりますのでご了承ください。

今後もお気付きの点やご要望をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

ご意見・ご要望	回答・改善等
＜運用・サービスについて＞ ２か月以上の長い入院生活となり、大変お世話になりました。 食事のローテーションがあまりにも同じで、メニューも味も少々飽きてしまいました。何年も前に入院した際、選択できるメニューもあり、食事が楽しかったことを思い出しました。 他計５件	栄養科では、３月下旬より給食システムの変更に伴い、大規模な献立変更を行いました。安全な食事を提供させていただくため、新しい献立の調理・作業に慣れるまでの間、限定的に１０日サイクルのメニューにさせていただいております。 ５月２１日より２０日サイクルのメニューでの提供を再開する予定でございます。また、選択食については６月以降の再開を目指しております。 どうぞご理解のほど、よろしくお願いいたします。
＜環境について＞ 入浴の際、書き方が人によって様々である。また、札と入浴場所が異なっている。 マットに水がたくさんかかっていて気持ち悪かった。 他計３件	入浴に関するルールが徹底できておらず、不快な思いをさせてしまい申し訳ありませんでした。入院時のオリエンテーションをより丁寧に行うよう努めて参ります。 また、浴室用足ふきマットの交換方法についても検討し、次に入浴される方が気持ちよく使用できるよう対応して参ります。 貴重なご意見ありがとうございました。
＜感謝について＞ 他の病院では治らなかった、私の統合失調症も、北部病院の皆様のおかげで回復し、希望が持てるようになりました。主治医のＭ先生の励ましや優しいご指導のおかげです。不安でどうしようもなかった時、夜間救急でＫ先生に話を聞いてもらい嬉しかったです。これからもご指導よろしくお願いいたします。 他計２件	



TOPICS　～医学部生向け病院見学会を開催しました～

6 月 3 日（土）、初夏を思わせる日差しの中で、今年も昭和大学横浜市北部病院見学会を開催いたしました。昨年に比べ、本年は 47 名と、およそ 3 倍近い方々にお越しいただきました。

成島研修管理委員長による挨拶に始まり、当院の概要や初期臨床研修プログラムの説明、本学の OB であり、当院で初期臨床研修の後に放射線科に入局された橋詰典弘先生の体験談に、見学者たちは将来の自分たちを重ねたように、真剣に耳を傾けていました。

休憩をはさみ、4 班に分かれての施設見学を行いました。各班に 1 人ずつ研修医がつき、救急外来や病棟、世界に誇る内視鏡センターや研修医自身が住む寮を見学し目を輝かせていました。 施設見学の後は、門倉病院長に挨拶をいただき、将来の若き医師たちに熱いエールが送られました。

最後は、研修医を囲んでの座談会を行いました。日ごろの疑問やなかなか聞きづらい部分まで質問し、それぞれの疑問は解消できたようでした。また、他の見学者との情報交換も進み、懇親会では出身を問わず、和やかな雰囲気の中、盛況のうちに終了しました。ご参加いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

当院では、6 月下旬から 7 月にかけて新たな相談会を開催予定です。今回、見学会に参加できなかった方、見学会に出席はしたけれど、まだまだ聞き足りないことがある方などなど、参加を希望される方は当院からの今後のお知らせにご注目ください。

また、当院では毎月、病院長・副院長にご出席いただき、研修医の先生との昼食会（ランチョンセミナー・ランチョンミーティング）を開催して、初期研修の一層の充実を図っています。お昼ごはんを食べながら、研修医たちの研修状況や生活のこと、抱えている不安や今後の希望等を、談笑を交えながら話し合い機会を設けております。加えて、日本医療教育プログラム推進機構の主催する「総合診療スキルアップセミナー」に研修医を毎月 2 名派遣し、学外に研鑽の場を設け、他よりも一つ先んじた研修を行なっています。

＜施設見学（総合医局）の様子＞

＜研修医を囲んだ座談会の様子＞

＜ランチョンミーティングの様子＞

当院は臨床研修指定病院となっております。臨床研修とは、良質な医療を安定的に供給できるよう、卒業直後の医師に幅広い臨床の基本的な能力を身につけさせるという趣旨によるものです。

救急外来を受診される患者さんの初期対応を上級医指導のもと研修医も行います。当院では 4 月より以下 22 名の初期臨床研修医が日々現場で研鑽を積んでおります。臨床研修医の教育を行うためにも、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

【平成 29 年度採用臨床研修医】

- 石垣　成紘　昭和大学
- 石黒　智之　昭和大学
- 薄元　宗一郎　昭和大学
- 大澤　基　昭和大学
- 太田　博之　昭和大学
- 郡司　寛之　昭和大学
- 小林　弘明　昭和大学
- 鈴木　順子　東京女子医科大学
- 瀬川　俊輔　昭和大学
- 田中　潤　東京医科大学
- 西尾　拓実　昭和大学
- 藤岡　立樹　昭和大学
- 藤嶋　さくら　昭和大学
- 藤田　崇史　昭和大学
- 三村　優樹　金沢医科大学
- 宮田　裕輝　昭和大学
- 山本　明希　金沢医科大学
- 和田　隆秀　昭和大学
- 茨城　麻綾　富山大学
- 大林　久晃　昭和大学
- 神田　里湖　産業医科大学
- 佐々木　由貴　帝京大学

TOPICS　～春期公開講座を実施しました～

6 月 3 日（土）に春期公開講座を実施しました。今回は「パーキンソン病について」（講演者：石垣　征一郎（内科・准教授））と「過活動膀胱について」（講演者：七条　武志（泌尿器科・講師））の 2 演題の講演を行いました。今回は耳の不自由な方でもお楽しみいただけるよう手話通訳や要約筆記、磁気ループを設置しました。

当日は 120 名を超えるたくさんの方にお越しいただき、誠にありがとうございました。

講演内容を簡単にご紹介いたします。

＜公開講座中の様子＞

▼パーキンソン病について

パーキンソン病とは、中脳の黒質の変性によりドパミン産生が低下し、スムーズに体が動かせなくなる神経変性疾患です。人口 10 万人あたり 100～150 人と推定されており、超高齢社会の日本において患者数が増えている疾患です。症状としては、静止状態で手足が震える、筋肉のこわばり、動きがゆっくりになる、バランスがうまくとれなくなるなどがあります。

▼過活動膀胱について

過活動膀胱とは、尿意切迫感を主症状とする症状症候群で、頻尿、尿もれなどを伴います。日中のトイレの回数が 8 回を超えると頻尿の疑いがあります。頻尿の症状のタイプとしては、尿の量、回数が多い、尿が全部出ない、1 回に出る尿の量が少ないなどが挙げられます。今回の講座では、演者が用意した 4 つの項目にチェックし、過活動膀胱の症状のセルフチェックを行いました。

講演後にお答えいただいたアンケートには「毎回多様なテーマで参考になっています」「高齢者 3 大疾病予防について講義を受けたいです」など、好評の声や今後開いてほしい内容など様々な声をいただきました。また、演者から一言ずつコメントをいただきましたので、ご紹介いたします。

▼演者からのコメント

＜内科　石垣准教授（第一講演演者）＞

予想以上の受講者数に加え、皆さんの熱心な受講姿に、とても充実した時間を過ごすことができたと心から感謝しております。

＜泌尿器科　七条講師（第二講演演者）＞

参加人数も多く発表後に多くの質問をいただきました。今回はこのような機会を与えて頂きありがとうございました。

（左から）
大下講師（整形外科・司会）、七条講師、石垣准教授

～編集後記～

日増しに暑くなり、これからが夏本番です。今年は 5 月頃より夏日が多々観測され、今夏は例年以上に猛暑になると予想されています。夏はたくさん汗をかき、気づかないうちに体内の水分が不足して脱水症状や脳梗塞のリスクが高まります。日中はもちろんですが、人間は睡眠中も汗をかいており一夜にかく汗の量はコップ一杯分(200cc)とも言われます。脱水症状や脳梗塞の予防のためにも睡眠前後の水分補給は重要です。日頃から小まめな水分補給を心掛けて暑い夏を健康に、元気に乗り切りましょう。

（リハビリテーション室　佐野　太基）

秋期公開講座は、10 月 14 日（土）13 時から当院西棟講堂にて『腰痛について』と『喘息について』の講演を行います。
次回も手話通訳、要約筆記、磁気ループを用意する予定です。多くの方のご参加をお待ちしております。

北部病院だより　第 109 号
平成 29 年 7 月 1 日発行
発行責任者　門倉　光隆（昭和大学横浜市北部病院長）
編集責任者　緒方　浩顕（広報委員会 委員長）
発行　地域中核病院　昭和大学横浜市北部病院
〒224-8503　横浜市都筑区茅ケ崎中央 35-1
電話 045-949-7000(代表)
URL：http://www.showa-u.ac.jp/SUHY/index.html
北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』がご覧いただけます。